



目指せ! 両国国技館!

第11回わんぱく相撲仙南場所

6月2日、蔵王町立宮小学校屋外土俵で、白石青年会議所が主催する11回目となるわんぱく相撲仙南場所が開催され、58名のわんぱく力士が熱戦を繰り広げました。

本市の各小学校からも多くのわんぱく力士たちが出場。白熱した取り組みの結果、3年生の部で大鷹沢小学校の増子悠友くんが昨年に引き続き優勝しました。このほかにも各学年の部で4位までに白石の児童9名が入賞するなど、大活躍の大会となりました。



▲団体戦「チーム大鷹沢」の取り組み

白石の史跡を美しく!

「やまぶき会」が清掃ボランティア



▲ごみはもちろん! 草刈りまで

6月11日、斎川地区の国道4号沿いにある桜戸観音堂で、婦人ボランティア団体の「やまぶき会」の皆さんが清掃活動を行いました。

この活動は、ごみのポイ捨てなどで汚れてしまう国道沿いの史跡をきれいにしようと、昭和60年から毎年欠かさずに行っています。

この日は9名の会員が清掃活動に参加。観音堂の周辺に投げ捨てられた空き缶やペットボトルの回収や草刈りを行いました。

福祉の郷に桜並木を!

水道週間にちなんで植樹を実施

6月1日、白石市管工事業協同組合と白石市排水工事業組合に加盟する事業者の皆さんが、水道事業所と協力して総合福祉センター近くの市道にオオヤマザクラの苗木を植樹しました。



▲植林作業を行う参加者たち

この日は約30名が参加。市道の両脇に10m間隔で5本ずつ10本の苗木を植え、5年計画で50本の植樹を行う「福祉の郷」に桜並木をつくらうというものです。きれいなサクラの街道となる日が楽しみです。

音楽との出会いがもたらすものは

けんみんアウトリーチコンサート

子どもたちに音楽とふれあってもらおうと、プロの演奏家が小学校などに出向いて演奏を披露する「けんみんアウトリーチコンサート」が6月4日、福岡小学校で行われました。

今回演奏を披露したのはフルト奏者の立住若菜さんと、ハーブ奏者の早川りさこさん。パッサリの「アペマリア」などの二重奏を披露したほか、子どもたちに楽器に触れてもらったり、給食と一緒に食べたりするなどして、楽しく交流しました。



▲(財)白石市文化体育振興財団が主催したコンサート

今年の田植えの出来栄は?

越河小学校コラボスクールで田植えの実習

5月23日、越河小学校近くの実習田で、同小の5年生と6年生18名が田植えを行いました。

同小では、「みやぎらしい協働教育推進事業」のモデル指定を受け、地域住民が指導者となりさまざまな体験学習を行うコラボスクールを実施しています。この日は地元農家の皆さんの指導を受けながら、3アールの水田に1列になり、秋の実りを楽しみにしながら、ひとめぼれの苗を一本一本丁寧に植えていきました。



▲楽しく田植えを行う児童たち

仙南の新しい特産品を目指して!

ムラサキシメジ栽培技術研修会

5月31日、白川犬卒都婆地区において「ムラサキシメジ栽培技術研修会」が開催され、仙南地域の農家33名が参加しました。



▲落ち葉マウンド法による栽培実習

主催したのは、県大河原地方振興事務所林業振興部。仙南地域の豊富な広葉樹資源を活用して、施設栽培が難しいムラサキシメジの野外栽培を定着させ、仙南地域の新しい特産品とするのが狙いです。本市からも7戸の農家の皆さんが参加して熱心に栽培方法を学んでいました。

手作りの良さを発信します!

第3回手づくりの市

5月26日、27日の2日間にわたり、今回で3回目となる手づくりの市が寿丸屋敷で開催されました。



▲思わず手にしたくなる商品の数々

市の中心部ににぎわいを取り戻そうと開催されているこの催しには、市内外からサークルやボランティアグループなど9団体が参加。

屋敷内には布製のコースターやエプロン、バッグなど、温かみのある作品が所狭しと並べられ、期間中、お目当ての商品を求めてたくさんの人が訪れました。

話題のニュースポーツで介護予防!

第16回市民グラウンドゴルフ大会

6月13日、白石川緑地公園で第16回市民グラウンドゴルフ大会が開催されました。市民の健康増進を図る「ヘルスパイオニアタウン事業」の1つとして毎年開催されている大会には、市内から11団体・93人が参加。楽しみながら体力と健康の増進を図り、相互交流を深めました。

熱戦の末、団体では深谷南チームが昨年に引き続き優勝したほか、長町福寿会Aチームが準優勝、本郷第三千歳会チームが3位となっています。



▲晴天下、楽しくプレーする参加者の皆さん

「ジューン・ブライド (June bride) 6月の花嫁」という言葉をこぞ存じですか? 結婚の女神ジュノーの月である6月に結婚すると、幸せになると考えられているそうです。しかし6月以外に結婚しても幸せな人はたくさんいます。ちなみに私は4月に結婚しましたが、今も幸せです。女房がどう思っているのか聞いたことはありませんが、今もお互いを尊重し仲が良いですから、「幸せ」だと思ってくれていると信じています(笑)。

先日、同級生の弟の結婚式に出席しました。以前は結婚式という

と同級生や仲間に見えることだけが楽しみだったような気がします。今回も旧友に会える喜びや新郎新婦に対する祝福の気持ちは変わりませんでしたが、これから長い人生を共に歩いていく二人に対して、

風間市長の「虫のこころ」 「結婚」

「頑張れ! 負けるな!」という励ましの気持ちが新たに自分の中に加わっていることに気が付きました。友人としての立場から時には兄のように、時には父親のように気持ちが変わってきたようです。年を重ねるにつれて、誰もが

して同じものはありませんでした。会場は同じでも新郎新婦、ご両家出席した方々が醸し出す雰囲気が違うのでしょうか。ただ、幸せな二人と、喜びの中にも心配そうに見守る親の姿はどこに行っても変わらないものでした。

表しています。二人が今までのことを受け止め、認め合い、感謝し合い、そして新たな家庭として船出をする。その形態はさまざまでも、これはとても素敵なことであり、大切なことなのだと思います。幸せの中に

現代では結婚をしない人が増えていくという話をよく耳にします。今後も幸せな二人がたくさん誕生することを、ただただ願うばかりです。話は変わりますが、商売や仕事について「かき入れ時」という言葉を使いますが、この「かき入れ」はどのようなことだと思いませんか?

【9月号の答え】

こういった気持ちを経験するのでしよう。私はやっとそのことを感じられる年齢になったということなのかもしれません(それが遅いか早いかは分かりませんが)。今まで出席させていたいた、どの披露宴もとても素晴らしく、一つと

「結」とは糸やひもを、ぎゅゅと締めつけて解けぬように固めることを意味します。「舌」は、入れ物の口にしつかりとふたをしたさまを描いた象形文字で、それを「糸」で入り口をしつかりとくびり、中身が出ないように締めくくるさまを

も背負うものが増え、押しつぶされそうになることもあるでしょう。しかし互いの手を結び、信じ合い助け合いながら乗り越え、「喜び」へと変えていくことにこそ面白さや楽しさがあるのかもしれないのか、結ぶ前の「縁」が見つからないのか、

一説には、サンスクリット語の「アルガ(仏様に供える水)」が語源で、潤滑かという漢字を当てた仏教用語が赤になったようです(水は冷たい↓他人は水のように冷たい↓水のような他人↓赤の他人)。ほかに諸説あり、どの説が正しいのかは分かりません。